

評価項目		A:3	B:2	C:1	D:0
療養生活を送る人々とその家族の理解	1) 療養者とその家族の自己決定および権利擁護について述べるができる	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護を自分の言葉で説明できた	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護に気づくことができた	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護に、指導を受けて気づくことができた	療養者・家族を主体とした意思決定や権利擁護に、指導を受けても理解できなかった
	2) ICF モデルを用いて、療養者とその家族の生活と健康の全体像をとらえることができた	ICF モデルに基づき、生活機能や、環境や家族等との関係性を整理でき、健康問題とそれに及ぼす影響を、多少の助言を得ることで、関係づけてとらえることができた	ICF モデルに基づき、療養者の生活機能や、環境や家族等との関係性を整理することはできたが、健康問題とそれに及ぼす影響の関連づけには、かなりの助言が必要であった	療養者の生活機能や、家族等との関係性を ICF モデルに基づいて整理することによりかなりの助言が必要であり、健康問題とそれに及ぼす影響について十分には理解できなかった	療養者の生活機能や、家族等との関係性を ICF モデルに基づいて整理することが、かなりの助言を得ても行えなかった
	3) 生活者としての視点で療養者とその家族を捉えることができる	療養者・介護者が望む生活が今後の方向性をもってイメージできた	療養者・介護者の現在の生活状況はイメージできた	療養者・介護者の訪問時の生活状況はイメージできた	療養者・介護者の生活状況がイメージできなかった
看護過程の立案	1) 多角的な視点から療養者とその家族をアセスメントすることができる	4つの視点で片寄りなくアセスメントでき、全体像が統合され、方向性が見えていた	方向性は見えていないが、全体像は統合できていた	全体像が統合できていなかった	重要な情報が不十分で、アセスメントができていなかった
	2) QOL を考慮して看護問題の優先順位を考えることができる	療養者・家族の望む生活を考慮した看護問題の優先順位を考えられていた	一般的な思考での看護問題の優先順位は考えられていた	看護問題の優先順位が的外れであった	優先順位が設定できなかった
	3) 療養者やその家族の生き方や将来への展望を理解し長期目標を設定できる	療養者・家族の生き方や将来への展望を考慮した長期目標を設定できた	一般的な思考での長期目標を設定していた	長期目標が的外れであった	長期目標が設定できなかった
	4) セルフケアの予測的視点から看護計画を立案することができる	療養者・家族のセルフケア能力を活かし、先を見越した看護計画が立案できた	療養者・家族のセルフケア能力を活かしているが、現状だけをみた看護計画を立案していた	個別性がない看護計画を立案していた	的外れな看護計画を立案していた
	5) 在宅での看護技術の特徴の実際を理解できた	提供されているケアについて、療養者・家族の生活スタイルに合わせ創意工夫されていることを、その根拠とともに説明できる	療養者・家族の生活スタイルに合わせた創意工夫されているケアの実際について気づくことができた	療養者・家族の生活スタイルに合わせたケアの工夫について気づくことができなかった	施設内ケアと、在宅ケアの違いに気づくことができなかった
	6) 看護実践を評価し今後の看護の方向性を考えることができる	看護過程の全プロセスを在宅療養の特徴を踏まえ①個別性、②継続性、③リスク、④予防の観点で評価し、多少の助言を得ながら今後の方向性について考えることができた	看護過程の全プロセスの評価において①～④の観点のいずれかが不足しており、かなりの助言を得て、今後の方向性について考えることができた	看護過程の全プロセスの評価において①～④の観点での評価を、かなりの助言を得ることで行えたが、今後の方向性については考えることができなかった	看護過程の全プロセスの評価において①～④の観点での評価を、かなりの助言を得ても行うことができず、今後の方向性についても考えることができなかった
療養生活領域に包摂するケア	1) 看護の継続性について述べるができる	生活の場を主体とした看護の継続性について、自分の言葉で説明できた	生活の場を主体とした看護の継続性に、気づくことができた	生活の場を主体とした看護の継続性に、指導を受けて気づくことができた	生活の場を主体とした看護の継続性を、指導を受けても理解できなかった
	2) 療養者とその家族が活用できる制度について述べるができる	療養者・家族の生活の場で活用できる制度について、自分の言葉で説明できた	療養者・家族の生活の場で活用できる制度に、気づくことができた	療養者・家族の生活の場で活用できる制度に、指導を受けて気づくことができた	療養者・家族の生活の場で活用できる制度を、指導を受けても理解できなかった

3) 多職種との連携について述べるができる	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、自分の言葉で説明できた	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、気づくことができた	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、指導を受けて気づくことができた	療養者・家族を主体とした多職種との連携について、指導を受けても理解できなかった
4) 在宅で療養するための看護職の役割について述べるができる	在宅で療養を継続するための看護職の役割を、自分の言葉で説明できた	在宅で療養を継続するための看護職の役割に、気づくことができた	在宅で療養を継続するための看護職の役割に、指導を受けて気づくことができた	在宅で療養を継続するための看護職の役割を、指導を受けても理解できなかった

評価項目		S:4	A:3	B:2	C:1	D:0
実習態度	1) マナー					
	身だしなみ	実習にふさわしい身なりが整えられ、他の学生にも気づかりできた	実習にふさわしい身なりが整えられた	実習にふさわしい身なりが、1回指導助言を受けて整えられた	実習にふさわしい身なりが、複数回指導助言を受けて整えられた	実習にふさわしい身なりが、複数回指導助言を受けても整えられなかった
	作法	訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いができ、他の学生にも気づかりできた	訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いができた	訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いが、1回指導助言を受けてできた	訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いが、複数回指導助言を受けてできた	訪問先・事業所において、礼儀正しい立ち居振る舞いが、複数回指導助言を受けてもできなかった
	コミュニケーション	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションができ、他の学生にも気づかりできた	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションができた	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションが、1回指導助言を受けてできた	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションが、複数回指導助言を受けてできた	訪問先・事業所において、相手を尊重した言葉づかい・コミュニケーションが、複数回指導助言を受けてもできなかった
	2) メンバーシップ	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動が、積極的にとれた	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動がとれた	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動が、促されてとれた	学内・臨地において、グループ内の役割を認識し、質問や意見交換・情報共有の行動が、複数回促されてとれた	学内・臨地において、質問や意見交換・情報共有の行動が、複数回促されてもとれなかった
	3) 報告・連絡・相談	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談が、自ら適切にできた	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談ができた	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談が、1回指導助言を受けてできた	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談が、複数回指導助言を受けてできた	実習関係者・教員に対して、報告・連絡・相談が、複数回指導助言を受けてもできなかった
	4) 学習態度					
	積極性	疑問や助言を受けた足りない知識について調べ、書面あるいは口頭で確認する行動がとれ、自己の課題を見出すことができた	疑問や助言を受けた足りない知識について調べ、書面あるいは口頭で確認する行動がとれた	疑問や助言を受けた足りない知識について調べたが、書面あるいは口頭で確認する行動は不十分であった	疑問や助言を受けた足りない知識について、複数回指導助言を受けて調べる行動がとれた	疑問や助言を受けた足りない知識について、複数回指導助言を受けても調べる行動がとれなかった
	提出物	指示された期日までに、実習要綱に沿って作成して提出でき、(相手にとって)読みやすく丁寧に記述できている	指示された期日までに、実習要綱に沿って作成して提出できた	指示された期日までに提出できたが、提出物に不備がある	指示された期日に遅れて提出した	提出していない